令和７年度

学力向上を図るための全体計画

小平市立小平第十五小学校

小平市の教育の目標

○社会的に自立し、地域・社会に貢献しながら、他者と共生する人（めざす人間像）

目標１　自分で考え、判断し、行動できる。
～自立（小平で基礎を培う）～
目標２　地域や社会に愛着を持ち、自分にできることを考える。
～貢献（市民が小平を育てる）～
目標３　他者を認め、良好な関係を築く。
～共生（小平で共に成長する）～

学校教育目標

◎ 考える子

○ 思いやりのある子

○ たくましい子

地域の実態と願い

○開拓以来３５０年の歴史と伝統を守る地域環境（青梅街道沿い）と新興住宅地が混在している地域である。
○ボランティア活動等、学校の教育活動に協力的である。
○学ぶ喜びや楽しさを実感し、学校へ行くのが楽しみな学校、地域の一員として役に立とうとする学校（保護者・地域の願い）

児童の実態

○気持ちの良い挨拶や返事ができ、明るく素直な児童が多い。学習に集中し話を聞く態度は良いが、表現力に課題が見られる。

学校経営方針(学力向上に関わる部分の要点)

○「学ぶ喜びや楽しさを実感し、意図的に学習の課題、学習する方法をつかみ、最後まで追求し、解決する子」
・共通実践に結び付けるための子どもの実態把握と課題に対する共通理解と効果測定。
・「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」を確実に身に付けさせるために「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業改善。
・基礎基本の学力の定着（かけ算九九、漢字等）と学力の向上、朝学習の効果的な活用、デジタルドリルや東京ベーシックドリルによる確実な習得による東京ベーシックドリル診断テストにおける１ポイント向上、ワークテスト５点向上。
・朝学習の計画実施【火曜日、水曜日】
・言語能力の育成。学校図書館の充実（読書活動の推進、調べ学習支援）
・計画的なＩＣＴ機器の活用（学習者用端末等：活用、研修、実物投影機、大型テレビ、デジカメ等）、プログラミング教育の充実。
・研究推進委員会等を中心とした、研究・研修計画と全教員での実践的な研究・研修の実施による学習指導力の向上。
・都や市等の研究会等への積極的な参加と研究内容の還元と共有（ＯＦＦ－ＪＴ）。
・計画的なＯＪＴ等の実施。（毎週金曜日）
・家庭学習の充実、習慣化。
・言語能力の育成。学校図書館の充実（読書活動）の推進、調べ学習に対する支援。
○「自分の体に関心をもち、楽しんで体を鍛え、健康的な生活を送ることができる子」
・計画的な運動遊び帯運動の時間の確保と運動の特性を踏まえた体育の授業展開。
・体育授業、こだいら一斉体力テスト週間、マラソン週間、行間遊びの奨励等を通して、主体的に体を動かす喜びを十分に味わわせることを体力向上に結び付ける。
・発達段階を踏まえた「お薬教室」「薬物乱用防止教室」「ＳＮＳ教室」等の実施。
・総合的な学習の充実と体系化。
・低学年の間の学習習慣の定着化。
・学校評価児童アンケートにおける１ポイント向上。

各教科の指導の重点

○基礎的･基本的内容の定着や考える力の育成のため、重点を明らかにした指導計画を立て、個に応じた指導を行う。個別最適化された指導を充実させ、個性を大切にし学力を向上する。
○「考える力」を育成するために、児童の発想・思考・表現を大切にした学習の展開を図る。児童が自ら課題を見付け、自ら解決する課題解決学習の授業展開を工夫、実践する。
○教師相互の協力や地域や学生ボランティアを活用し、体験的学習や課題解決学習が効果的なものとなるように工夫する。
○教科や領域との関連を図り、言語活動を充実させ、基礎的・基本的学習の定着を促す。

道徳教育の指導の重点

○相手の立場に立って考える場面を大切にし、望ましい人間関係づくりを目指した指導に努める。
○道徳の全体計画に基づき、家庭・地域と協力して道徳の授業の改善に努め、道徳的実践力を身に付けさせる。
○自国の文化や伝統についての理解と自覚を深め、他国の文化や伝統を理解し尊重する態度を育てる。
○道徳授業地区公開講座を実施するなど、家庭・地域と連携しながら道徳教育の充実を図る。

総合的な学習の指導の重点

○自然や人とのかかわりを通して、課題を見付け、主体的に探求する態度を養う。
○興味や関心をもった事柄を追究することを通して、自主的に問題を解決する能力を育てる。
○地域人材や施設を積極的に活用し、地域に根差した児童の育成を目指した、教材開発や人材発掘を行う。

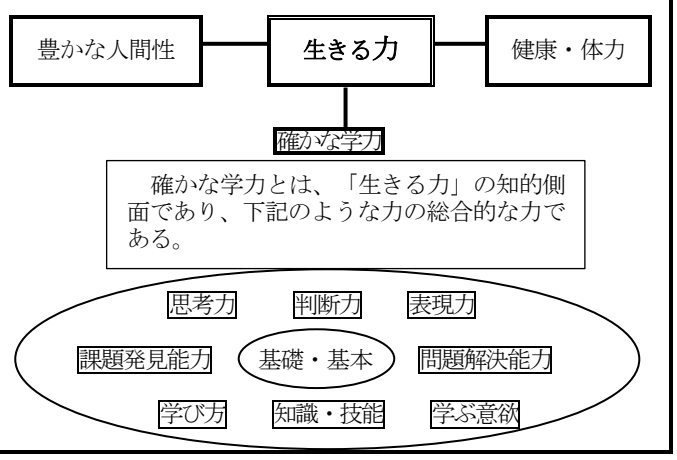
特別活動の指導の重点

○児童が一人一人のよさを認め合い、互いに協力してよりよい学校生活にしようとする自主的・実践的な態度を育てるため、児童の創意と協力を生かした特別活動の展開を図る。
○豊かな人間関係や社会性を育てるため、「たてわり班」を編成し、異学年交流を通して相手を思いやる心や協力する態度など共に生きる児童を育てる。

進路指導の重点

○地域の方々との触れ合いや農業体験を通じて、地元地域の良さを感じるとともに、身近にいろいろな仕事をしている人がいることを知らせる。
○児童が自己理解を深めながら自らの生き方を考え、目標や希望をもって生活できるように地域の人材を生かした指導を工夫し、児童の望ましい勤労観･職業感を育成し、主体的に進路を選択する能力の基礎を培う。

育てたい力



生活指導の重点

○基本的生活習慣の定着を図り、社会規範を守る態度を育てるため、具体的な方策について教職員間の共通理解を深め、家庭･地域との連携を一層図る。
○児童一人一人の理解を深め、教育相談的手法を活用して児童の思いや願いの実現に努めるとともに、問題行動の早期発見に努め全職員の共通理解の元に一致した指導を行う。また、スクールカウンセラーや関係諸機関との連携を強化し適切な対応を行う。
○健康（特に感染症予防）と安全に対する意識と実践的態度を培うため、健康教育を充実させるとともに、不審者対策をはじめとする安全管理体制を整える。

本校の授業改善に向けた視点

個に応じた指導	指導内容・指導方法の工夫	評価活動の工夫	校内研究における研究や研修の工夫	家庭や地域社会等との連携の工夫
○低学年から少人数指導の方法を工夫し、指導の充実を図る。 ○児童の学習状況や進度を把握し、個に応じた手だてを工夫する。 ○学習補助員を配置し児童への個別対応ができる環境を作り出す。	○週ごとの指導計画内容の充実。 ○基礎・基本の学習を徹底する。 ○東京ベーシック・ドリルを活用し、小学校１学年から６学年までの基本的な内容を身に付ける。 ○各授業内において、個で思考する時間を確実に確保し、自分の考えをしっかりともてるようにする。 ○学習者用端末、図書室等の有効活用、利活用を進める。 ○課題解決的学習及び体験的学習を工夫し、主体的で深い学びの学習を促進させる。	○指導と評価の一体化を図った学習指導を工夫する。 ○児童の自己評価や相互評価を取り入れることにより学習意欲を高める。 ○評価規準を見直し、学習指導のＰ（計画）、Ｄ（実行）、Ｃ（評価）、Ａ（改善）のサイクルを定着させる。	○東京都教育委員会から「人権尊重教育推進校」の指定を受け、研究主題を「人も自分もともに充たされることを楽しみ、味わい、共に分かち合うことのできる児童の育成」とし、校内研究の実施を行う。 ○学年ごとに異なる切り口から、人権課題の解消に向けた取り組みを行い、人権教育の充実を図る。 ○研究授業を柱とした校内研究を行い、研究の成果や課題等をリーフレットにまとめ、共有する。	○学校の周りの自然や地域を生かした学習を取り入れる。 ○地域の人材を活用する。 ○学生及び社会人ボランティアを活用する。 ○家庭学習の定着を図る。 ○津田塾大学等の関連機関との連携を図る。